

社会福祉法人章仁会 平成 28 年度事業計画（案）

平成 27 年度の介護保険改定の煽りを受け、当法人の業績においても非常に厳しい状況が続いております。特に通所系事業所においては、介護保険改定による減算だけでなく、利用者確保に関しても苦戦しており、当初想定したものより大きな減収となりました。同業他事業所との競合、居宅介護支援事業所の縮小と集中減算対応等、当法人の提供するサービスの質量に問題解決が急務であります。

また、社会福祉法人制度改革が進められ、社会福祉法人としてのガバナンス（組織をまとめて治める）の強化、事業運営の透明性、財務規律の強化等がより求められています。

このように、業界全体を取り巻く状況が激変していく中、地域に求められる法人として存続していくために何が必要なのか、どう変わらなければならないのかを検討し、実行していかなければなりません。

以上のことを踏まえ、次のように計画致します。

1. 法人事務局

平成 27 年度の予算達成率は軒並み下回り、事業計画の立案だけでなく、それを達成するプロセスを見直さなければなりません。

権限と責任の所在を明確化し、迅速に対応できる事業所にならないと、稼働率はもとより、右肩下がりの事業所経営（運営）は改善されません。

また、三次市で順次推進している地域包括ケアシステムは、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築することではありますが、地域との関わりを増やしていく中で、当法人としての立ち位置を明確にした上で、立ち上げに加わらなければならないと思っております。

また、通所系事業所の懸案でもあります要支援者対象の総合事業についても、三次市は平成 28 年度中に移行する予定ですが、収益面で非常に厳しいものであり、サービスの在り方を構造的に変えていく必要があるものと考えております。

平成 28 年の当法人のキーワードは「チャレンジ」としてしています。今までと同じ意識、行動では何も変わりません。経営陣をはじめ、職員一人一人がチャレンジできる環境づくりも急務であり、人材の底上げのための制度改革や教育にも取り組み、昨年 12 月から義務化されました職員のストレスチェックについても実施していく所存であります。

2. 介護老人保健施設リカバリーセンター章仁苑

1) 老健

稼働：1日平均、入所 63 名、短期入所 2 名（+空床）で、65 名厳守。

内容：身心状態別ケアの継続と職員体制の一体化による、利用者サービスの標準化と効率化を目指します。

又、老健の理念でもある在宅復帰を可能な限り実現し、看取りに関しても、対応できるべく体制づくりを推進します。

2) 通所リハビリ

稼働：1日平均 15 名

内容：アクセントのあるリハビリと重度化に対応したケアを実施できる通所として、対外的にもアピール致します。

3) 訪問リハビリ

稼働：1日平均 4 名

内容：庄原・総領方面での強みを通所系にもつないで、継ぎ目のないサービスを目指します。

3. 通所介護章仁苑センター

稼働：1日平均 30 名

内容：個別機能訓練加算の算定を復活させ、サービス内容を収入に反映させます。また、要支援の利用者に対しては総合事業化に向けての運営対策、又重度化する利用者に対応できる入浴設備や車両連携も検討し、幅広いニーズに対応できる通所介護事業を目指します。

4. かわにし小規模多機能施設

稼働：目標登録者 25 名、月平均泊り人数 45 名

内容：医療面での強みと訪問を組み合わせ、地域に密着したサービスを提供します。

5. 章仁会居宅介護事業所

稼働：1か月平均 75 名目標

内容：常勤 3 名必須の特定事業所加算が外れ、常勤 2 名体制で運営します。

専門職としてのスキルはもとより、利用者の多様なニーズと変化に対応した、内容重視のケアマネジメントを実践します。

6. 住宅事業

1) サービス付き高齢者向け住宅

入居者の重度化への対応が懸案になりつつあります。在宅サービスでの調整や施設入所等も視野に入れ、入居者及びその家族との考え方を擦り合せていきます。

食事の完全委託から物販委託に変えること等、ローコストの収入でも耐えられる住宅として、ソフト面の見直しを図ります。

2) 高齢者・子育て支援住宅

入居者が高齢化していますので、認知症の症状悪化等住宅での対応が困難になるケースについては、早目の対応にて適切なフォローを実施致します。

7. 地域との連携

1) 元気ハツラツ教室

三次市が受託者募集した場合、①和田②川西にて受託し実施する予定です。

2) 地域トレーニング教室

週に2回、和田の地域にて無償実施を継続します。

参加する方はスポーツ保険費用のみで参加出来ます。

3) 地域包括ケアシステム支援

三次市や和田地区社会福祉協議会と密に連携し、積極的に関わり構築支援致します。